

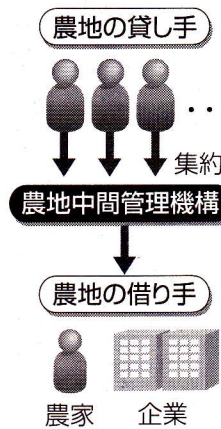
# 石岡活性化へ調査・研究

## 県中小企業診断士協会

県中小企業診断士協会(会員70人、川又昭宏会長)は、石岡市周辺をモデル地域とするまちづくりや商店街支援に向けた調査・研究に乗り出した。上部組織の中小企業診断協会の公募事業で、企業経営の診断・助言などを業務とする中小企業診断士のノウハウや人脈を地域活性化に役立てるのが狙い。石岡商工会議所の「萌え系キャラクター」「いしおか恋瀬姫」をテーマにしたサンバコンテストを目玉事業とする計画で、来年2月までに報告書をとまとめる。

同事業は、地域資源を3グループに分け、の発掘や活用を通じた地元企業や商店などのまちづくり・商店街支ヒアリングを開始。支援のマニュアル作りがループごとに、サンバ目的。同市周辺は「歴史と伝統を誇る地域資源の宝庫」(川又会長)で、これまでも協会員市との広域連携の一環として、のまちづくり研究会の実験事業について、中心に調査研究や提言調査研究を進める。行ってきた。いしおか恋瀬姫は、8月の事業採択を受同会議所青年部が2009年に考案したキャラ

農地中間管理機構の仕組み



定的で低価格な商品の提供を目指す。西川公也農相は7日の閣議後の記者会見で企業の農業参入に関し「拡大基調にあるだろう」との見方を示した。

農地中間管理機構と農地の貸借契約を締結。羽生市で11畝の水田を借り、来春から埼玉県が開発したブランド米「彩のかがやき」を主に栽培する。

の外食企業でも提供の見通しだ。政府は国内農業の生産効率を上げるため、経営のノウハウを持つ企業の参入を推進した考え。

## 恋瀬姫 サンバコンテストを計画

付けやパフォーマンスを競う。2月の「いしおか難巡り」などに合わせて開催し、市民参加型のイベントとして定着を図る計画。同市で結婚式場「マリアージュ吉野」を経営する同協会の山本裕子副会長は「音頭と共に踊りの輪を広げたい」と意気込む。

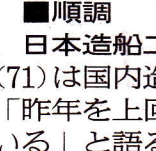
ラクターで、主にイベントや商品などに活用されてきた。「恋瀬姫サンバ」は、「恋瀬姫音頭」の楽曲や振り付けも制作されたが、最近では活動も下火という。サンバコンテストは、「恋瀬姫サンバ」を音声合成ソフト「ボカロイド」を使って若者向けにアレンジし、オリジナルの振り付けやパフォーマンスを競う。2月の「いしおか難巡り」などに合わせて開催し、市民参加型のイベントとして定着を図る計画。

が、目立った成果がないまま、本年度末での打ち切りが決まった。川又会長は、地域活性化の火を消さないためにも「国が力を入れて地方創生の流れに乗って、実効性のある報告書をまとめ、民間からも一度、活性化の機運を巻き起こしたい」としている。

## 経営トップの発言集



■ガス管別会社化  
都市ガスの小売り全面自由化に合わせ、経済産業省が大手3社を対象にガスの導管事業の別会社化を検討しているが、東京ガスの広瀬道明社長(63)は「マイナス面が大きい」と反対の立場だ。都市ガスの導管がカバーしているのは国土の約5%で、同様の改革が進行中の電力会社ほど市場支配力はないというのが主張。自由化後に生き残るためには導管延長などのインフラ投資が必要といい、「バラバラになると資金調達や意思決定が難しくなる」と訴える。



■順調  
日本造船工業会の佃和夫会長(71)は国内造船各社の受注量が「昨年を上回る勢いで推移している」と語る。円安で競争力が増したことなどが理由だ。世界的な供給過剰も解消に向かっており、「回復に向けた足取りは順調だ」と評価する。一方、景気回復などで他業種に人手が流れ、

三菱UFJフィナンシャル・グループなど大手銀行5グループが9月末時点で保有する株式の含み益の合計が5兆9100億円となったことが8日までに、大和証券の試算で分かった。3月末の4兆4915億円から約3割増えたという。安倍政権の経済政策「アベノミクス」や円安に伴う企業業績の改善への期待を背景に、株価が堅調に推移

## 9月末時点 半年で3割増

したため。9月30日の日経平均株価(225種)の終値は1万6173円52銭で、3月末と比べて約1割上昇した。試算の対象は、三菱UFJのほか、みずほフィナンシャルグループ、三井住友フィナンシャルグループ、りそなホールディングス、三井住友トラスト・ホールディングス。株式含み益が拡大す

## 大手銀含み益5.9兆円

日本郵政グループの拡大で大きめの商品の日本郵便は10月から、配送が増えていることインターネット通販の「に対応し、差し入れ口が入れられないこと

の差し入れ口は厚さ3センチが一般的で